

神 有

かみ
あり



国道56号の仁井田の街中を北進しているといつの間にか神有に入っている。そのくらい仁井田の街との地理的一体感がある。国道から仁井田小学校に入る信号の少し手前辺りから、障がい者支援施設「オイコニア」あたりまでである。

国道に沿って細長い集落を形成している神有は南部の「神有Ⅱ下」と北部の「小神有（こかみありⅡ上）」に別れている。現在、上・下あわせて52世帯、およそ100人が暮らしている。

江戸中期に、山内豊房の命を受けた緒方宗哲という人がまとめた地誌「土佐国州郡志」には「神有谷」の名で、範囲は「東限は川（仁井田川）、西限は本在家村坂（松葉川方面へ抜ける峠Ⅱ現在の川原越トンネル辺りであると思われる）、南限は浜之川村、北限は六反地村新田」と記載されていることから、現在の仁井田地区も含めた広範囲にわたる集落であったことがわかる。それから100年ほどさかのぼった戦国期の地検帳には「カメアリ村、カメアリ谷村、六反々村、野田村、銚ノ谷村」という記載がみられるのだが、この5村を併せて神有村としたのではないかと考えられている。

再び江戸期に目を移すと、元禄期には神有村として「神有分」と「小神有分」とに分けて記されており、さらに幕末には「小神有村」という記述がみられるため、江戸中後期には正式に2村に別れていたものと見られる。そして、明治9年、神有村、小神有村の両村は、辻ノ



海津見神社

川村などと合併し仁井田村となる。神有も小神有も、ともに地区の氏神様は、仁井田小学校の北向かいにある「海津見神社」である。神話に登場する海の神様「オオワタツミ」大綿津見・大海神を祀っている。仁井田地区の一部もここを氏神様としているらしい。

また、地区には以前、万福寺というお寺もあったが、江戸時代に入って間もなく退転し、跡地に馬頭観音とお地藏様が祀られた。さらに、地区の裏山の急峻な坂の上に金比羅さんも祀られていたのであるが、近年人家のあるところに移転した。現在はお地藏様と同じ場所で仲良く並んでいる。

さて、松葉川方面へ抜ける峠にある川原越（かわらこえ）Ⅱ瓦越と書く説もあるようだ。トンネルであるが、このトンネルは昭和の終わりくらいまではまだ、コンクリートで覆われていない岩盤むき出しの、いわば「掘りっぱなしトンネル」であったらしく、抜ける時には落石に気をつけながらの「ドキドキ通過」であったという。



川原越トンネル

(3月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,317	-52	男 2	10	56	101
女	9,326	-53	女 3	21	54	88
計	17,643	-105	計 5	31	110	189
世帯数	8,587	-19	(3月中の届出)			
窪川地域	12,385人	大正地域	2,513人	十和地域	2,745人	

町のうごき

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	4月13日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.531
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	1.20
化学的酸素要求量	≤ 10.0	3.381

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部